レッスン：4"M"

テーマ：メゾコスモス

MAC.4M.DOC

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、光、そして火の子供達。私達は常に神、絶対、神の聖性に包まれています。

前のレッスンでは、マクロコスモスは絶対存在の本質と属性を有しており、それ故に神の聖なるアウタルキーと黙想の中にある、と述べました。

神の黙想とブレーシス（＊神の意志）から、神のエバレスキアの結果として、マクロコスモスおよびマインドのイデアが神の表現となる、という事実についても触れました。マインドを使用し、現れとしてマクロコスモスの創造と構造があり、そこにはそれ自体の内における絶対存在の本質と属性の表現が完全に投射されています。

マクロコスモスとして創造界があり、それは７つのヘブンに分けられますが、それら７つのヘブンはそれぞれマインドの様々な波動によって定義されます。そして、メゾコスモスの中には地球という惑星が存在します。私達は皆、地球の物質としての亜ステートを知っています。地球に関することは、他の惑星である他の天体についても同じです。地球の物質体は3次元の物質界を提供します。また、地球のダブルエーテリック体も存在し、それはいわゆるエーテル界を提供します。地球のダブルエーテリック体は地球の中心から放射され、地球全体を通過し、地球の周囲数キロメートルへと放射しています。地球のダブルエーテリック体は他の惑星、さらには地球の衛星である月のダブルエーテリック体に接触することはありません。

地球は７つのエレメントから成っています。最初の３つのエレメントはダブルエーテリックまたはエーテル体を作り、それらはエネルギーという形態、および科学には知られていない他の種々の形態としての磁気および電気に匹敵します。それを定義し、示すことは不可能です。それら３つのエレメントはいわゆる“トリアクティス”(Triactis)です。他の４つのエレメントはいわゆる“テトラクティス”(Tetractis)と呼ばれており、人間には土・水・空気・火として知られている自然の４つのエレメントです。

地球のサイキカル体があり、それは人間に４次元のサイキカル界を提供しています。サイキカル体は地球の中心から発し、地球の周囲を月の近くまで達するような範囲で放射されています。地球のサイキカル体は他の惑星のサイキカル体に触れることはありませんが、月のサイキカル体には定期的に接触します。勿論、それには目的があります。

さらにまた、地球のノエティカル体があり、それはノエティカル界、つまり５次元の低次および高次ノエティカル界を提供しています。それは地球の中心から放射され、この太陽系の他の全ての惑星に接触しています。太陽をその中心とする私達の太陽系はスーパーサブスタンスとしてのマインドの海の中を泳いでおり、そこでは創造物全てが神のエバレスキアの結果として顕現しています。ノエティカル体には２つの顕現があると述べる必要があります。一つは形としての低次ノエティカル体であり、それはサブスタンスから成っています。もう一つは明確な形のない高次ノエティカル体で、それはスーパーサブスタンスから成っています。それゆえ、高次および低次の２つのノエティカル体があります。低次ノエティカル体を通じて表現されるパーソナリティーは、いわゆるサイコノエティカル体と呼ばれるものを肉体から分離させて、セルフ・エピグノーシス(Self Epignosis)である意識を表現するためにそれを（分離した体として）使用することはできません。物質界、サイキカル界そして低次ノエティカル界は、キリスト・ロゴスおよび聖霊が、エレメントのアークエンジェル、および他のアークエンジェルのオーダーと共に形成しています。人間は全てが用意されている中で、自分の理解に応じて自分の環境の形成と再設定に干渉して、自分の理解に応じてより良く生きようとします。言い換えれば、人間は自分自身の環境を築いており、それは地獄にもパラダイスにもなり得ます。

\*Page2

地球と太陽系内の他の惑星との関係について、直ちにいくつかの質問が出てきます。例えば、地球に関することは他の天体についても同じである、と言う時、それはどういう意味なのでしょうか？

エーテル界とは何で、人間はこれらの世界でLifeの現象として自分自身を表現できるのでしょうか？トリアクティス(Triactis)の３つのエレメントと人間の健康の間には関係があるのでしょうか？様々な形で愛をさし伸べることが、どのようにして人間の健康の回復を助けるのでしょうか？なぜ私達はサイキカルおよびノエティカル界と言い、サイキカル界とノエティカル界とは言わないのでしょうか？月と地球との関係とはどのようなものであり、なぜ地球のサイキカル体と月のサイキカル体が定期的に接触するのでしょうか？

月は地球の衛星であり、それゆえそれは地球に奉仕しています。それは地球の補足的部分であり、地球人の進化に向けて貢献しています。それは隔離、回復、あるいは懲罰の場として成長の途上にある人間に奉仕しています。それは衛星ですが、いわゆる生命の木と呼ばれる創造の分子の母型上では、それは自己充足的なサイコノエティカル・センターと見なされています。このセンターをマスターすることは、人間の成長の道における望ましい進歩と見なされます。

月は地球の一時的な懲罰の場として働いているので、人間を隔離させることのできる境界があるはずです。月のサイコノエティカル体と地球のサイコノエティカル体との接触の目的は、それら２つの天体をつなぐ道を作り、それによって人間が地球のサイコノエティカル界と月のサイコノエティカル界との間を移動できるようにするためです。もし、ある一定期間のみ開かれるこの接続リンクがなければ、人間は月のサイコノエティカル界を訪れることはできません。

月には、不可視の“守護者”であるヘルパーがいて、隔離された、問題のあるパーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスを助け、世話をしています。さらに、地球の物質的な亜ステートにあまりにも密接に関係し、地球の物質界に入ろうとして絶えず月からの脱出を試みるパーソナリティーもいます。

彼らの目的は、肉体に取りつくことによって環境からエーテル活力を得て、この物質界で自分自身を表現することです。月にいる数多くの存在の大部分は低い波動の状態にあり、彼らの目的は肉体を占領することです。彼らはサイコノエティカル体と肉体との接続リンクが弱い身体を占領しようとします。

テンカンという現象は、肉体を占領しようとするそのような試みの結果です。また、高熱のある幼い子供達の場合もそうです。このようなアンバランスな状態においては、現在のパーソナリティーの３つの体の間の接続リンクが弱まっており、そのチャンスに乗じて占領しようとするのです。そのような症状の時に見られる痙攣は、そのパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスが侵入者を拒否しようとする努力の現れです。そのような実体によって完全に占領されるチャンスはありませんが、しかしパーソナリティーであるセルフ・エピグノーシスにダメージを与える可能性があり、そのためにそのパーソナリティーに直ちに援助を差し伸べることが重要なのです。

そのような場合、真理の探究者であるあなたは患者を純白の光で包みます。あなたの手と腕が純白であるとイメージし、手を患者の腹部の右手側、肝臓のある場所に置きます。体がしっかりとつながるための手段を与え、占領者を追い払います。現代医学でもそれとは知らずに同じような治療をしており、医師が肝臓のある太陽神経叢に手を当てています。実際、両方のケースで生じているのは、エーテル活力が援助者の手から患者へと入り、その結果肉体とサイコノエティカル体との間の安定性が強化されるのです。

私達の太陽系内の他の惑星の衛星もまた懲罰の場所となっているのでしょうか？他の惑星は衛星を懲罰の場所とする必要がありません。それらはサイコノエティカルな意味で地球より遥に進化しているからです。彼らは自然のエレメント、さらにはトリアクティスのエレメントさえマスターしています。彼らは懲罰の場を必要としないので、その衛星は他の目的のために奉仕しています。Lifeの現象内において、地球は現れ、サイコノエティカルな上昇という点では最も低い状態にあります。生命の木における創造の分子である私達の太陽系内において、地球は最も低い点にあり、それは四面ピラミッド、自然の４つのエレメントにおいて見られます。四面ピラミッドと三面ピラミッドがあります。将来のレッスンにおいては、他のテーマと共にこれら２つのピラミッドを扱い、それらの面のマスター、Lifeの現象内における現在のパーソナリティーとしての私達の諸体のマスターとなることをめざします。

月は地球の衛星であることに加え、先に述べたものとは全く異なった役割をも果しており、それは人間の成長の道において良い意味でのステップとなっています。そのステップとはまさに、私達のサイキカル体をマスターするためのステップです。サイキカルな亜ステートをマスターするということは、人間の視覚・触覚・味覚・嗅覚・聴覚が超感覚として表現されることです。彼は超感覚のために五感、５つの愚かな召使を捨て去ります。これがサイキカル体をマスターするということです。

太陽は勿論、ノエティカル体をマスターすることを意味します。そこでは現在のパーソナリティーがいわゆるキリストエナステシア（Christoenasthesia)あるいは自己実現と共に超意識のセルフ・エピグノーシスとして広がります。Lifeの現象としての人間が月を訪れることは可能でしょうか？

勿論です。投射およびエクソマトーシスを通じてそれが可能ですが、そのためにはその人が３つの体をマスターしている必要があります。人間は不可視のヘルパー、慈悲のヘルパーとして奉仕するために月を訪れることができます。人間はまた、もし目的があるならば、太陽系内の他の惑星、さらにその先にも行くことができます。

一度人間が３つの体をマスターすれば、どこにでも行くことができます。なぜなら、全ての天体はスーパーサブスタンスであるマインドと呼ばれる海の中を泳いでいるからです。

３つの体をマスターすることによって、人は眠りの状態においてパーソナリティーとしてのセルフ・エピグノーシスが肉体を去り、サイキカルおよび低次ノエティカル体の波動を上昇させ、それらを高次ノエティカル体において同化させます。スーパーサブスタンスのマインドであるこの亜ステートが作られると、パーソナリティーはいかなる天体のスーパーサブスタンスのマインドの中にも広がっていくことができます。例えば、火星の亜ステートに入ることによって、彼は自分の波動を下げ、ノエティカルな亜ステートの低次の波動であるサブスタンスの波動を帯びます。さらに下降することによって、超物質の波動、地球のサイキカルな亜ステートを帯び、さらにまた下降することによって、地球の物質としての亜ステートを帯び、そして3次元の中に入ります。エーテル界は物質の物質界からサイコノエティカル界へと至る途中の一時的なステートです。例えば、死の現象と共にこの３次元世界を去るパーソナリティーは、最終的にサイコノエティカル界に入る前に、ある期間いわゆるエーテル界に留まります。このエーテル界はまだ物質界にいるパーソナリティーにとっても、非常に身近なものです。

\*page4

永遠にこれらのエーテル界に住むパーソナリティーがいるのでしょうか？答えはノーです。なぜなら、それは正確には組織された状態ではなく、むしろ一時的状態だからです。それは物質界なのですが、Lifeの現象がエーテルのステートで現れているのです。

全ての宇宙はその比率は異なりますが、同じエレメントから構成されています。さもないと、“上と同じように下もそうである”という言葉は真実とは言えません。マクロコスモスと同じように、メゾコスモスとミクロコスモスもそうなっています。私達は神の似姿なのです。ミクロコスモスである**人間が超意識のセルフ・エピグノーシスのフォームを発達させると、彼は広がって地球と同調し、次にメゾコスモスと同調するようになります。**メゾコスモスと一つになることによって、ミクロコスモスとしての彼の亜ステートは今や地球となり、彼のメゾコスモスは太陽系となり、マクロコスモスは宇宙です。常に同じ亜ステートの表現を保つステートは、マクロコスモスです。

リアリティーにおけるLifeとしての私達は、小さな太陽になぞらえることができます。それはLifeの現象として、特定の目的のために固体化されています。全てのパーソナリティーの目的は同じであり、与えられている環境も同じですが、しかし各パーソナリティーはその気づきのレベルに応じてその環境に住んでいるのです。このようにして、Lifeの現象としての各パーソナリティーは、それ自身の地獄あるいはパラダイスに住んでいる個人として生きています。地獄もパラダイスも、その人自身の思考・行動に応じた完全なる創造物なのです。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA MAC4/ENM/90/91/EN/GK